

タカラコロボラボ 第8回・第1期第8回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議) 議事録	
開催日時	令和6年(2024年)9月3日(火) 18:30~19:55
開催場所	第2庁舎 会議室A・B
次 第	1 開会 2 議事 (1) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について ア 第1回作業班の報告 (2) 協働の事例集の更新について ア 事例集の目的・事例の集め方等の確認 イ 事例の検討 3 その他 4 閉会
出席委員	田中会長、加藤委員、遠座委員、永崎委員、松村委員、龍見委員、上田委員、大関委員、岡田委員、橋之爪委員
開催形態	公開(傍聴人3名)

1 開会

事務局から、本日の出席者は10名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は3名であることを報告した。

2 議事

(1) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について(作業班の報告)

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア 意見交換会の内容について、PR ブースでは参加団体にパネルを制作してもらい発表してもらう方法と参加団体数が少なければ、各ブースでインタビュー形式で行うやり方がある。活動を始めたきっかけ等をインタービュアーがポイントを絞って質問をすると思う。壇上でプレゼンテーションをするような発表や単にブースでパネル発表を行うと熱意が伝わりづらく、かえって人が集まりにくい可能性がある。大きな会場でインタビューをして回って、金銭は出ないが、最終的に表彰をするという方法を、以前、兵庫県が行っていた。審査員と活動者が一緒に会場を回り、活動の内容を聞いて評価するという方法もある。ブースだけでなく、発表するという方法があってもいいのではないかなと思う。

イ ア委員がおっしゃっていた表彰は、宝塚にしたに里山ラボが表彰された知事賞のことではないか。

ウ 表彰していただいたことがある。報告会の時に、選んでくださった委員の方

がそれぞれの活動についてコメントをくださった。そのコメントが他者からの視点だったため、私たちにとっては大変有難かった。知事賞の活動として選ばれた時点で活動内容をまとめてくださっていて、それを見ながらプラスアルファで委員さんが思ったことを言うてくださった。

エ 知事賞に選ばれたのは何か書類を提出したのか。

オ 応募をした。書面と1時間ぐらいの面接での選考だった。講評をいただいたのは委員の方だけだった。

カ 何団体くらい出ていたのか。

キ 知事賞については、まちづくり部門とまちなみ部門の2部門あって、各部門で2団体ずつくらい出ていた。知事賞の他に奨励賞があった。表彰だけではあったが、大変有難かった。

ク 作業班での議論の中で、パネルだけだと物足りないというのがある。やはりイベントで発表する団体に対する動機付けが必要だと思う。活動内容を発表して表彰されることで自信になり、励みになると思う。発表する側だけでなく、その場に参加した人の刺激になって、そこから活動につながっていけばいいと思う。

ケ ちなみに、宝塚にしたに里山ラボはなぜ応募したのか。

コ 賞に関する情報を教えていただいたのがきっかけだった。もともと市のきずなづくり推進事業補助金の申請をしていて、都市計画のセクションとつながりがあり、そこから情報をいただいた。賞をいただくとすごく励みになるし、認められたということが嬉しい。

サ 講評をされていた委員にはどのような方がいらっしゃったのか教えていただきたい。

シ 6次産業のプランナーの方、兵庫県立大学の教授の方や都市計画系の教授の方等4人いらっしゃった。自分たちがいいと思っていなかった部分をすごく評価していただいたので、そこが自分たちの強みなのだと知ることができてよかった。

ス (会長) 今までは少し曖昧だったが具体的にどういう人たちをターゲットにするか明確になってきた。例えば、宝塚市に引っ越しをされた方が新たなつながりを求めているという具体的な意見が出てきた。実際に活動されている方からの視点だったのか。

セ (事務局) 活動されている方、活動されていない方どちらの視点もあった。引っ越しをしてきたばかりの時は、その地域で誰とつながればいいのか、友達もいない状況で孤独を感じる方もいる。その方のために、つながりをつくる場を提供するという発言だったと思う。実際に、引っ越しをしてきてすぐの方がつながりづくりのためのワークショップに参加してくれたという事例があった。ターゲットやイベントの内容については、今後の作業班で議論をしていきたいと思う。

(2) 協働の事例集の更新について

ア 事例集の目的・事例の集め方等の確認

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア (事例集に掲載されている写真について) すごくいい写真がセレクトされているがどのように集めたのか。

イ (事務局) おそらく団体に事例集に掲載できる写真を提供していただいた。

ウ この事例集が置いてあっても、タイトルが堅苦しくてあまり見てみようと思わない。例えば、西宮市の支援団体が制作した不登校の子どもたちのためのフリースクールが一覧になった資料のタイトルを「なかもリスト」と名付けていた。多くの人に見てもらいたいものだと思うので、砕けたタイトルのほうがいいかと思う。

エ 平成 30 年 3 月発行の協働の事例集の第 2 弾を作成するということか。

オ (事務局) 第 2 弾という形にしたいが、タイトルや内容は見てもらえることを優先で考えていきたいと思う。媒体もパンフレット形式でなく、基本はホームページに掲載する想定で、タイトルも全く同じにしないといけないとは思っていない。見てもらいやすいタイトルにできればと思う。

カ 補助金を活用して活動した団体の報告書を Web に掲載し、その閲覧数を参考に事例を決めていけばいいと思う。また、どうしてプレイヤーがいなかったということを考えていた。自治会やまち協といった既存の団体について調べて、やってみたい活動内容やテーマを団体の役員に話をしても、既存団体でイベント等のスケジュールがすでに決まっていることを理由に、団体の役員から拒否をされた事例がある。話も聞いてくれないから、自治会やまち協が何をしているか知らないという声もあった。団体の代表や役職のある人が、活動をしたいと思っている人の声を聞く余裕がなかった。だから、我々の活動ではそれはしないようにしている。

キ (事務局) そういう方を受け入れることができている事例も掲載したいと思っている。自治会やまち協の考え方をアップデートしてもらわないといけないということは市も思っている。今回の事例集更新やイベントを通して自治会、まち協に知ってもらう機会になればいいと思っている。

ク 今、私が所属する団体の中で文化部長をしている。メンバーとして活動してくれている現役世代の 2 人が中心になって企画提案や、準備を進めてもらっている。予算の相談を受けることもあるが、できるだけ実現できるように予算配分をすることを心掛けている。カ委員が言われたように、意見を聞き入れるというのは大変重要であると改めて思った。

ケ 団体と活動者をつないだ事例や視点を次の事例集に掲載できたらいいのではないかと思う。協働の関係をつくるためのパートナーシップ、パートナーシップをつくるための人との繋がり、付き合い方というのは誰でもできるわけではないと思う。誰がどのようにして繋いだといったかなりテクニカルな

ことや団体側の受け入れ体制が整っていたということは今の事例集に掲載されていない。相談をしたいときに間に入ってくれる方やコーディネーター的存在の方がいるということが大事な要素だと思うため、事例集に掲載したいと思う。

コ ケ委員のご意見の内容は大事な視点で、本文に書けなかったとしても、コラムのような形で記載して、問い合わせ先等があるといいのではないかと思います。

イ 事例の検討

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア 記載例の事例は自分事に持っていくことが難しいと思った。次のアクションに持っていきにくい。例えば、現場を見学して、自分たちにできることはないかと考えることができるため、問い合わせ先や活動場所を記載したり、見学ができる日時等を書いて、相談に乗りますということが伝えることができたらいと思う。

イ 候補としてシートを提出する段階では、その団体に説明する必要はないということでもいいか。

ウ (事務局) 説明する必要はない。

エ (会長) シートは委員が作成する想定か。

オ (事務局) シートの内容が決まれば、委員の皆様はシートのお送りし、委員の皆様から提出していただきたい。公募は考えていない。候補としてあがった事例から事例集に掲載する 10 事例を選ぶ際には、地区や協働の相手方が偏らないように委員の皆様で検討しながら選びたい。

カ イベントの実施に向けた議題の中でも、イベントに参加してもらう団体を決めようとしているが、事例集とは別で考えているのか。

キ (事務局) 事例集に掲載する団体とイベントに参加してもらう団体は重なる部分があると思う。事例集に掲載したら必ずイベントに参加してもらうということではないが、結果的に連動してくると思っている。

ク 以前、事例集に掲載する事例を決める際には、委員が活動内容をよく知っているからこの事例にしようというように決めていったが、今回は委員が所属している団体以外の事例を候補として出していただけたらいいと思う。もう一つのパターンとしてコミュニティビジネスや企業との協働、学校との協働の事例を案出しでいただけたらいいと思う。事例集の更新やイベントが市内の協働のPR や啓発に繋がると思う。

ケ (会長) シートの項目はこれでよいか。

コ (意見なし)

サ (事務局) 事務局から電子メールでシートの様式を送付させていただく。10 月 4 日までにご提出いただき、次回の TaCoLAB で集約したご意見をもとに検

討していきたいと思う。

3 その他
特になし

4 閉会